2021年 9月 9日 2年4組「乱舞」

乱舞

ウトナイ中 2年4組

苫小牧名物の謎

関係しているのはマンガ

ホッキ漁の苦労

ホッキは家庭で出ない？

苫小牧はホッキで有名である。そのホッキはどのようにして我々の手元にくるのか。また苫小牧名物であるのにホッキが家庭であまり食べられないのはなぜなのか。その理由を知るため苫小牧漁業協同組合の小田紀えさんにインタビューをした。

まずはホッキのとり方について聞いた。ホッキ漁は長のようにホッキをとるルールがある。そして、ホッキは特殊な方法でとられている。ホッキをとる道具として使うものは「マンガ」と言われるもの。ホッキは海底の砂の中にいる。最初にプロペラ（GPS装置）を使い人工衛星で砂などが少ない場所を調べる場所を決めた5200メートルあるロープを降ろし、いかりで固定し、次に海にマンガを降ろす。このロープを巻き取ることで船を動かし、マンガを引っ張りホッキをとる仕組みになっている。マンガにはポンプが付いていてポンプの水圧で砂をとばす。そり機マンガに付いている爪を使いホッキを後ろに付いている網で回収する。

マンガを引き上げホッキ以外のものは放流する。放流する理由は北海道の許可をとっていない魚などの海産物はとることができないからだ。許可をとるのにはお金を払う必要がある。また許可をとるために船や必要な道具を買い、給の保険、船の修理など様々な面でお金がかかる。

次にホッキ漁の苦労について聞いた。漁の出航する、しないを決めるのは天気ではなく波を見て決める。小田さんによると波がしけている日は出航作業はないと言う。波がしけると言うのは波が荒れているという意味がある。波がしけると出航することができなくなる。そのためホッキが取れず、予定していた取り引きができないのが大変なところだと小田さんは言う。ていた。最近だとコロナウイルスの影響によって、ホッキの価格が低下している。ホッキの需要は庶民が一番高いが販売が減っていき、取り引きが低迷している状況が続く。コロナ禍になってホッキの価格はいつもの2分の1、3分の1になりと売り上げが下がっている。ホッキはイベントの時が一番売れる。コロナウイルスによってイベントが中止になったのも厳しいと小田さんは話す。

コロナ禍になる前のホッキの値段は他の貝に比べて少し高い。そのため家庭ではナサリや牡蠣などが多くホッキが出ることは少ない。それはまず小牧でも同じだ。ホッキを家庭で気軽に食べれるものにしていきたいと小田さんは言う。

時期	7月1日～11月31日 / 12月1日～4月31日
必要な人数	2人～3人
重さ	約150kg
サイズ	9cm以上○ / 9cm未満×

新しい入試制度と学習方法

私は、北海道公立高校入試で学校裁量問題が廃止され、各教科60点満点から100点満点に変更されることについて意見がある。

今までの入試は、皆にとって苦手意識の強い思考力をためされる記述問題は、裁量問題に出題される傾向が強かった。そのため記述問題は裁量問題で行うという、たパターンが出来上がり受験生にとって都合が良かった。だが、裁量問題が廃止されると、記述問題がどこに出題されるのか不安が残る。また、100点満点になることで、以前と比べて問題一つ一つの配点が高くなることが予想され、受験生にとって、たった一つのミスも許されないという負担が出てくる。このことから、以前までの方が良いと考えられる。

しかし、昨今では社会の変化に備え思考力や表現力が求められ、今までとは色に逆の方向に世間が動いている。「中学生生徒の苦手な問題分析」によると知識・技能よりも思考力・表現力を問う問題の方が不正解や無解答の確率が高いことが分かる。しかし、新しい制度に反対したからといって入試が変わる訳ではない。大切なのはこれからの入試に対しての学習方法だと考える。国語以外の場合、要語の理解とそれを説明できるように学習すること、国語の場合は、自分の考えを書く問題を練習し、慣れることだ。

これからの入試に対し、知識の量だけにとらわれない実力をつけるために自分を変える努力が必要。2年生にとって、自分を変えるなら「今」なんだと思う。

ノーザンホースパークの裏側

苫小牧の観光地の1つノーザンホースパークにはたくさんの馬がいる。馬はどのようにして競馬に出るのか。そこにはどのような苦労があるのか。厩舎長の鈴木俊明さんに話を聞いてみた。

馬は暮らす厩舎と呼ばれる所はたくさんあり、その中の一つを鈴木さんは担当している。競技中、馬が騎手の指示をしっかりきくようにするため、そして馬の足を速くするために、厩舎長の仕事は馬に乗り練習することだ。厩舎には、約20頭馬がいる。毎日その馬に乗るのは大変なので、馬ごとに乗る日を決めているそうだ。さらに鈴木さんは、自分の担当している馬が競馬に出ているときは、何度も見に行き毎回分析する。そこで出た課題を馬に乗り改善をする。厩舎にいる馬が競馬で勝つとうれしいそうだ。

G1とよばれる競馬のレースで勝つと優勝賞金が7000万～3億円になる。しかもG1のレースに出ることは簡単ではない。他のレースに出て、数多く勝って、名馬になることが必要だ。

馬には エサを与えなければならない。馬は一日、な～にを食べ、水は20～40ℓ飲む。

給食センターに行ってみた！

給食センターでは、給食を作る以外でどんなことをしているか知っているだろうか。苫小牧第一給食センターに取材に行った。

まず初めに献立表の作成だ。献立表は2ヶ月前から苫小牧市栄養基準量を元に栄養教諭によって作られている。給食は一食、小学生2ワー円、中学生が316円。市全体で400万円で1万487食分を作っている。食材費は、家庭から5集金しているが、水道代・電気代は市が出している。これらのお金の管理は給食センターの仕事だ。

次にボイラーの管理だ。ボイラーは、水をあたため、水蒸気にするために、給食を作る時や食器を除菌する時に水蒸気は使われる。ボイラー技士はボイラー室で1日中仕事をしていて夏場はとても暑いらしい。ボイラー室は敷室の半分程の大きさでパイプが張り巡らされていた。夏休み、冬休みは1週間かけて食器を1つ1つ洗う。この時にも水蒸気は使われる。

最後に聞いた。給食センターが完成すれば、来年1月から給食のメニューに生野菜が加わるそうだ。

こころを込めて

北海道苫小牧市表町三丁目二一八に、「おにぎりこころ」というおにぎり専門店がある。この店のメニューは三十種類。炊きたてのお米で作った塩むすびを食べてみた。ほかほかしていてとてもおいしかった。

店の名前は、おにぎりに心を込めて握っていることが由来。と店長の高橋さんは話す。

このお店でこだわっている材料は、しょうゆ。お店で作った自家製だれを使い、優しくこぼれるように握っている。米にもこだわっている。ていねいにもうだ。馬の好きな食べ物はニンジンや、リンゴ、ハチミツ、角砂糖などのせい物。その他のエサは、乾草、切りわらアルファルファ、サイレージなどが有る。

厩舎長の仕事の苦労を聞いてみると、従業員の馬に乗るスケジュールを決めることらしい。それは従業員が自由に馬に乗るとその日に違う人が何度も同じ馬に乗る可能性があるためだ。そのスケジュールをいつも家に帰って決める。

最後に、鈴木さんにノーザンホースパークのオススメスポットを聞いてみると、ハッピーポニーショーだと言う。さらに、そこではおいしいソフトクリームを食べることができるそうだ。

編集後記

題名は、「乱舞」（らんぶ）。題名は、初めての壁新聞なので、題名には普段のクラスの様子を表現した。2年4組は、個性が強くにぎやかなクラスなので乱舞とした。それぞれ、一生懸命に書いた新聞記事と隅々まで凝ったデザインが見どころなので、細かくみてほしい。